



東京外国語大学文書館-企画展

学内競漕大会の歴史

東京外国語大学において毎年開催されている学内競漕大会には、100年を超える歴史があります。1902年(明治35)秋に隅田川を舞台に始まった競漕大会は、学内の重要な年中行事の一つとして発展してゆきます。本企画展では、長い歴史を有する競漕大会の様子を、関係資料や写真を中心に紹介します。

- ◆ 展示期間：2024年4月22日～7月末
- ◆ 展示場所：附属図書館1階展示スペース（右下図、印の建物）
※開館時間については附属図書館開館時間をご確認ください。

【東京外国語大学アクセス】

- ◆ 西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩5分
- ◆ 京王電鉄「飛田給」駅北口より徒歩20分
- ◆ 多磨駅行き京王バス
「東京外国語大学前」下車



1. 学内競漕大会の興り

第1回学内競漕大会は、1902年(明治35)秋に開催されました。東洋組(清・韓)と西洋組(英・仏・独・露・西・伊)に分かれた選手たちは、固定席艇(6人漕ぎ)に乗り接戦を繰り広げました。翌年の第2回大会後、漕艇大会は「Foreign Languages School」の頭文字をとり、F組(英・仏・独)、L組(露・西・伊)、S組(清・韓)の三組対抗レースに改められます。

1907年の第6回大会の際に第一選手レースの覇者に贈る大優勝旗が作製され、学内競漕大会は学内の重要な年中行事の一つとして発展してゆきます。



【上】1929年春季校内大会・各組応援団



【上】1929年春季校内大会・覇業レースの敗者

2. 覇業レースの興り

明治・大正期の競漕大会は主として秋季に、F・L・S対抗の第一選手レース・第二選手レースが実施されてきました。しかし、1923年(大正12)からは春季に開催されるようになり、春季大会では第一選手レースに加え、「一年級分科レース」が開催されるようになります。この一年級分科レースが翌年から F・L・S三組の1年生対抗レース「覇業レース」と名称を変え、校内レースの花形となってゆき今日に至ります。



【上】1943年戦前最後の学内競漕大会覇業レース(於戸田)

3. 戦時下の競漕大会

戦時下においても学内競漕大会は継続されます。学生たちは「非常時下学生たる本分にそむかない」ことを標語に活動し、松戸への遠漕も敢行しました。また、戸田漕艇場の竣工後(1940年)の第40回大会(1942年)からは会場を戸田コースに移し開催されました。

1943年5月23日第41回大会を最後に、大会は中断されることとなります。1943年の秋には、東京外国語学校から多くの学生が「学徒出陣」として戦地に赴きました。



【上】1967年学内競漕大会 レース

4. 戦後の学内競漕大会

1951年、学内競漕大会が「戦後第1回」と銘打って復活します。1953年6月の戦後第2回大会には50組、250名の参加者があり、新制大学になり出現した女子学生の参加も見られ、大会は年々華やかさを増してゆきました。

学生全体数に占める女子学生の比率の上昇とともに、男子学生中心の覇業レースをメインレースとする大会への参加者数は減少していきます。そのため、第85回大会からは「女子覇業レース」が導入されます。この大会には127クルー(前年96クルー)がエントリーし、競漕大会は再度活気を取り戻していきます。

こうして、学内競漕大会は本学に欠かせない年中行事の一つとして今日まで継続します。

